

- 3) 本文中の句読点は「、」と「。」を用い、「、」や「。」を使用しない。「、」は、和文では全角、欧文では半角でお願いします。
- 4) スペースキーは学名や英単語の区切り以外には使用しない。
- 5) リターンキー（改行）の使用は段落の終わりだけに限定し、1行ごとに改行しない。
- 6) 段落行頭や引用文献の字下げにはタブ、インデント機能を使用する。
- 7) 全角の数字・アルファベットや半角のカタカナを使用しない。
- 8) ギリシャ、独、仏、北欧文字や数学記号などの特殊文字を打ち出し原稿に手書きで記入する場合（例：u を \ddot{u} 、u を μ 、e を \acute{e} 、O を \emptyset に）は、赤字で明記する。
- 9) 上付き、下付き、イタリック、太字などの文字指定を打ち出し原稿に手書きで行う場合は、赤字で明記する。
- 10) 新種記載や学名の使用は最新の国際植物命名規約に従い、和名は全角カタカナを使用する。
- 11) 本文中ではじめて使用する学名にのみ著者名をつける。属と種形容語には下線を引く。
- 12) 単位系は SI 単位を基本とする。原稿中で使用できる主な単位と省略形は次のとおり： 時間 hr, min；長さ m, mm, nm；重量 g, mg；容積 L, mL；温度 $^{\circ}\text{C}$ ；波長 nm；光強度 Wm , $\mu\text{mol m}^{-2} \text{s}^{-1}$

4. 校正

校正は初校のみとします。DTP で割り付けたファイルを

PDF ファイルに変換して E-mail で送りますので、無料の PDF ファイル閲覧ソフト Acrobat Readerなどで画面上もしくは印刷して校正していただきます。校正の結果は E-mail でご返送ください。図表等は解像度が低い場合がありますので図表の最終チェックは編集委員会におまかせください。なお、PDF ファイルを扱えない場合は従来どおり校正刷りをファックスもしくは郵送いたします。校正はレイアウトおよび提出ファイルからデータ変換が正しく行われているかを確認するととどめ、校正は受領後 3 日以内に編集委員会宛ご返送ください。

5. 制限頁と超過頁料金

論文は刷り上がり 10 頁、短報 4 頁、総説 16 頁以内を無料とします。頁の超過は制限しませんが、超過分については超過頁料金（1 頁あたり 12,000 円）が必要です。その他の報文については、原則として 4 頁を無料とします。2,700 字で刷り上がり 1 頁となる見当です。そのほか、折り込み頁、色刷りなどの費用は著者負担となります。

6. 別刷り

有料です。別刷り価格は、基本料金（送料と発送手数料を含む）2,000 円に、2 ページ 50 部当たり 1,000 円が加算されます。原則として別刷りは表紙無しとなります。PDF ファイル（有料）をご希望の方は別途ご相談下さい。校正時前後に、編集委員会より別刷り申込みのご案内を申し上げます。

（2008 年 7 月 10 日改正）

ご投稿をお待ちしています

「藻類」は皆様の原稿で成り立っている雑誌です。原著論文のみならず、総説やその他の邦文（記事等）のご投稿もお待ちしております。投稿後の連絡は原則として E mail でおこないますので、投稿票には E mail アドレスを忘れずにご記入下さいますようお願い申し上げます。

（編）



三浦半島の海藻

横須賀市自然・人文博物館で特別展示「三浦半島の海藻」が開催されました（平成 21 年 3 月 1 日～5 月 31 日）。会期にあわせ「三浦半島海藻図鑑」（p. 110 の書評欄を参照）を出版された高橋昭善・大森雄治 両先生による意欲的・精力的な企画で中身が濃く、とりわけ、入場者を待ち構えるように林立する押し葉標本の「藻場」のレイアウトが美しい展示でした。横須賀市博には、昭和 30～40 年代に葉山観光館の学芸員であった川瀬ツル氏が作成した海藻標本が収蔵されており、今回その貴重なコレクションの一部も公開されていました。

（北山）

